



## 学校給食で日本一を堪能!

地元農畜産物を使った「ふるさと給食」を10月19日、明道小学校で池田市長と6年生が味わいました。小・中学生に地元農畜産物を使った給食を提供し、食育と共に都城の魅力味わってもらおうと企画。子どもたちは、日本一に輝いたふるさと納税と宮崎牛について学んだ後、いざ実食。メインは都城産宮崎牛のステーキで、児童らはペロリと平らげると、おかわりに走るほど喜んでいました。近藤玲奈さんは「お肉がとてもおいしい。毎日食べた」と都城の日本一を堪能していました。



ふるさと給食

## 作って遊んで環境学習

「STOP! 地球温暖化」をテーマに環境まつりが10月21日、リサイクルプラザで開催されました。環境問題に取り組む企業や団体が、ドングリなどを使った工作や缶バッジ・鏡制作などさまざまな体験コーナーを企画。多くの家族連れが楽しめました。また、家庭で不用となった家具や自転車、生活雑貨などを手入れたリサイクル品の展示販売に、たくさんの方が詰め掛けていました。体験教室では西俣寧音さん(五十町)が「自分でキーホルダーを作れて楽しかった」と喜んでいました。



都城市環境まつり

## 50年を振り返り、互いに感謝

今年度金婚を迎える市内の夫婦を祝う「都城市合同金婚式」を10月24日、総合文化ホールで開催しました。式には、131組の夫婦が参加。代表して隅清賢・千賀子さん夫婦(東町)に市長から祝い状と記念品が贈呈されました。また、結婚した年から現在までの主な出来事を振り返るスライドショーなども上映され、参加者らは当時は懐かしんでいました。隅清賢さんは「金婚を迎えられたのも、妻の健康管理があったから。これからも、二人仲良く元気に過ごしていきたい」と笑顔で話していました。



都城市合同金婚式

## 年代を超えて交流しながら学ぶ

地域の人からミシンの操作を学ぶ家庭科の授業が10月24日、大王小学校で行われました。地域の人が、裁縫やミシンの操作に慣れない児童に指導することを通して交流を深め、児童の豊かな人間性を育むこの取り組み。指導をする人の周りには、好きな柄のナップザックを作るため、ミシンの使い方を熱心に質問し、教えてもらう児童が集まっていました。竹松乙華さん(5年生)は「ミシンを使ったことがなかった。難しいけど楽しく、分かりやすく教えてもらった」とほほ笑んでいました。



地域の人からミシン操作を学ぶ授業

## 大好きな高崎で頑張ります!

高崎町の地域おこし協力隊である大原千佐子さんが3年間の任期を終え10月25日、池田市長に離任を報告しました。大原さんは空き家を調査したり、笛水地区の野菜をふるさと納税の返礼品に登録したりするなど、地域の人と一緒に活動。また、看護師でもある大原さんは、健康講座の開催やイベント救護班としても活躍しました。「家族で高崎町に移住し、地域のひとの活動を通してたくさん仲間ができた。高崎町で店舗を開業し、今後も地域に根差し、頑張ります」と意気込みを話していました。



地域おこし協力隊離任報告



## 威風凛々。弥五郎どんの浜殿下り

文化庁選抜の無形民俗文化財「弥五郎どん祭り」が11月3日、的野正八幡宮(山之口町富吉)周辺で開催されました。富吉小学校の児童らに引かれた身の丈4尺の弥五郎どんを先頭に、獅子舞やみこしなど約200人が浜殿下り。弥五郎どんに触れると、1年間健康に過ごせることができるとの言い伝えから、沿道の見物客らは、われ先にと手を伸ばし、無病息災を祈願していました。また、隣接する弥五郎どんの館広場では、浦安の舞の奉納のほか、俵踊りや棒踊りなどが披露されました。



山之口弥五郎どん祭り

## 大切な人への思いを書でつづる

市PRロゴ制作者で書家の紫舟さん指導のもと、大切な人へ書で手紙をつづる「ラブレタープロジェクト都城編」を11月3日、ウエルネス交流プラザで開催しました。参加者らは、家族や友人へ日ごろの感謝の気持ちなどを思い浮かべながら、手紙を下書きし、思いの書体を練習した後、1・3の大きな和紙に言葉をつづっていました。参加した片平真彬さん(山之口小5年)は「いつもの習字とは違って、型にはまらず自由な書体で思いを書いて面白かった」と笑顔で話していました。



ラブレタープロジェクト都城編

## 新鮮な野菜と魚に長蛇の列!

市場を身近に感じてもらう、地場産品の消費拡大につながる市場まつりが11月5日、都城市公設地方卸売市場で開催されました。新鮮な農産物や魚介などが普段より安価に購入できるとあって、早朝から多くの家族連れらが来場。マグロやイクラなどが盛りだくさんの海鮮丼売り場に長蛇の列ができていました。また、マグロ・カンパチの解体試食や野菜・果物の無料配布のほか、フラーアレンジメント教室やステージも開催。来場者らは毎年恒例の秋のイベントを満喫していました。



市場まつり

## ごみ処理の指導を徹底

ごみ排出量が増えていることを受け、ごみの減量化や適正収集を目的に11月10日、クリーンセンターでごみ収集車の本格展開検査を行いました。市では、年4回の本格展開検査と月2回の簡易検査を実施。無作為に選んだ一般廃棄物収集運搬業者の収集車一台分のごみを広げると、職員らが産業廃棄物や不燃ごみなどが混ざっていないかを、手際よく検査しました。神菌裕二センター長は「不燃ごみや事業所ごみが、一般の可燃ごみとして出されないよう指導を徹底していきたい」と力を込めていました。



可燃ごみ収集車の展開検査

## 協力して命を守る訓練

都城市合同防災訓練を11月12日、コミュニティセンターと中央公民館で行いました。毎年、防災関係機関や自主防災隊などと合同で行われる住民参加型のこの訓練に、今回は姫城地区の住民らが参加。参加者らは、応急救護訓練や防災体験をしたり、防災関係機関の車両展示などを見学したりして、真剣に災害や防災について学んでいました。田代昌子さん(蔵原町)は「災害はとてつもない怖いこと、とつさに動くのは難しいことが分かり、いい経験だった」と防災への意識を高めていました。



都城市合同防災訓練



smiling faces of miyakonojo

10月27日から29日にかけて、和歌山県で開催された第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会で、肥田一郎さん（97歳）がM95男子砲丸投・円盤投・ハンマー投でそれぞれ1位に輝きました。

全日本マスターズ陸上競技選手権大会は、陸上競技を通じ、中高年者が心身の健康維持・増進を図り、生涯スポーツの推進を目的とした大会で、選手らは5歳刻みで区分された各種目で日ごろの成果を競い合います。今大会には、全国から2,236人が出場。肥田さんは全国で3番目、九州では最高齢の選手でした。

子どもの頃から体を動かすことが好きだった肥田さん。都城中学校（現在の都城泉ヶ丘高等学校）在学中は、陸上部だけでなく水泳部にも所属するなど、活発にスポーツに取り組みました。卒業後は師範学校に進学し、母親が熱望した教職の道へと進みます。大王小や南小、夏尾小などで教鞭を執る傍ら、バレー大会に参加したり、保護者と野球を楽しんだりするなど、スポーツを通して交流の輪を広げました。こうした活動がきっかけで、65歳の頃からマスターズに参加するようになりました。

今大会まで1度も欠かすことなく、

マスターズに出場している肥田さん。15年前に大病を患い手術を余儀なくされましたが、術後の経過が順調でその年も出場することができました。この時から、毎朝の体操を欠かさず行ったり、自炊をして野菜を多く食べたりするなど、健康管理には人一倍気を配るようになりました。また、「切れ目なく参加できたのは、今は亡き妻や教え子たちの支えがあったから」と周りの人への感謝も忘れません。毎日の心掛けや周りの人の支えもあり、大会では好成績を残し、昨年はM95ハンマー投で日本記録を樹立しました。

競技を楽しむ以外に、大会を通じて知り合った友人に会えることも、肥田さんがマスターズに参加する目的の一つ。「参加するたびに友だちが増えて、大会で顔を合わせると、再会を喜び握手を交わす。みんなに会えるのが楽しみ」と目を細めます。

「100歳で砲丸を投げるのが今の目標」と意気込みを話す肥田さんは、東京オリンピックが開催される2020年に、100歳を迎えます。「これからも健康維持に気を配りながら、マスターズに参加し続けたい」とほほ笑んでいました。



第38回全日本マスターズ  
陸上競技選手権大会<sup>\*</sup>M95男子  
砲丸投・円盤投・ハンマー投1位

肥田 一郎さん  
(菖蒲原町)

※95～99歳のクラス



目指すは100歳での  
マスターズ参加